



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき
 食べ物がおいしい季節。レシピ本を借りていろいろな料理にチャレンジしてみませんか？
 メロン



新着・お薦め図書

- 泗水図書館**
 罪の声 塩田武士／著
 九十歳。何がめでたい 佐藤愛子／著
 狩りの時代 津島佑子／著
 風を繙う あさのあつこ／著
 千夏ちゃんが行く 福本千夏／著
 ライザップごはん RIZAP 株式会社／著
 もりもりさまの森 田島征三／作
 ゆびさきちゃんのだいぼうけん いわいとしお／著
- 中央公民館図書室**
 フグ田マスオさん家を買う。 峰尾茂克／著
 美しい百人一首の風景 MdN 編集部／編
 江戸の家計簿 磯田道史／監修
 バベル九朔 方城自学／著
 築地市場 モリナガ・ヨウ／作・絵
 天と地の方程式 3 富安陽子／著
 かいけつゾロリのおいしい金メダル 原ゆたか／著
- 七城公民館図書室**
 知識ゼロからのフルマラソン入門 小出義雄／著
 陸王 池井戸潤／著
 和太鼓のひみつ 小野美枝子／監修
 オンライン! 11 雨蛙ミドリ／作 大塚真一郎／絵
- 旭志公民館図書室**
 津軽双花 葉室 麟／著
 幸運を呼びこむ不思議な写真 FUMITO／著
 学校ななふしぎ 齊藤 洋／文
 せかいいちのねこ ヒグチユウコ／文と絵

10月のフェア紹介

七城公民館図書室

七城公民館図書室では毎月、さまざまなフェアを行っています。10月は読書週間のおすすめ本をはじめ、スポーツやハロウィンなどを展示しています。また、七城町で行われるコスモまつりにちなみ、ウォーキングやストレッチに関する本を集めたフェアも開催中です。

読書の秋、ぜひ七城公民館図書室に足をお運びください。

耳より情報

10月27日～11月9日は読書週間です

ことしの読書週間の標語は「いざ、読書」。読書の楽しさを増やす、広げる、深める、そして出会うきっかけになることを願い、誰もが参加できる楽しいイベントを開催します。

読書週間のおすすめ本

各図書室(館)の司書オススメ本、約50冊を記載した冊子を作成しました。司書のコメントを参考にしながら新しい本と出会ってみませんか。この機会に、泗水図書館・各公民館図書室にお越しください。お待ちしております。



子どもたちは、「どくしょビンゴ」に挑戦しよう!

いろいろな本を読んでビンゴのマスを埋めよう。縦・横・ななめの3列がそろったら、先着順でステキなプレゼントがもらえますよ。対象は小学生まで。

と き：10月1日(土)～11月12日(土)
 と ころ：泗水図書館・中央公民館図書室・七城公民館図書室・旭志公民館図書室



万句の里俳句会 8月句会

何もかも省略したき残暑かな 小山 照子
 病窓に青田の風の音をきく 田中 美智
 草の葉を揺るがしてをり秋の風 野中 公江
 晩学の生き甲斐一つホ句の秋 隈部 輝子
 大雨も早も平気百二才 加藤 妙子

せせらぎ俳句会 8月例会

返事なき父母と語らふ盆三日 五丁 義昭
 終戦忌知覧と菊池繋ぐ糸 藤本 邦治
 丁寧うどん粉捏ねる終戦日 寺本 和子
 佛壇に鶏頭の種子散りこぼれ 服部 静子
 夏季五輪メダルラッシュの地球裏 藤本アツ子

旭志文芸教室俳句の会 8月詠草

被災死の牛にも線香とんぼ来る 水谷 ミネ
 一人居の気楽な余生昼寝かな 芹川のり子
 主亡き家を守りて百日紅 中尾ヨシコ

肥後狂句水笑会 8月例会

雲の峰青き山より湧く如し 芹川 蓉子
 旅行好き つれの良かなら面白か 中島 五女
 旅行好き 新幹線で日帰りも 御手洗三代
 公私混同 偉くならずと間違わす 宮上 美由
 基礎年金 ほきやがまださにや食て 井手 水光
 行けん まさか鯨じゃなかるうか 小崎 海美
 土用鰻

七城短歌会 8月詠草

立秋を過ぐるも猛暑が続くなりされど宵庭虫の声聞く 緒方 正俊
 田のもどりいつしら集まるアキアカネ餌撒き散らす事もあらぬに 高木 精
 指先でまろむは昼餉時知らずしてシヤツに付きいしこぼれ飯粒 佐々 重弘
 猛暑とていとわぬ緑と黄の調和橋の両脇咲く向日葵は 嶋田 晴美
 曾孫二人庭先プールで大はしゃぎ我に水掛け識りては興ず 緒方 寛子

「里」短歌会 8月詠草

連日の猛暑にひまわり首垂るる行列長く給水を待つ 緒方 悦子

中継に合せて孫も黙禱す刻みおかれよ幼き記憶

砂漠の砂一メートル掘りポプラ植ゆ地を踏みしめて未来を託す 岩本サヨ子
 防災の青き上着を洗いてはパンと叩いて秋空に干す 江頭 桂子
 明け遅き朝の狭庭に起き立つに蘭の香りと初秋の風 山城 雅子

さわやか大学文芸クラブ8月歌会

走り梅雨止みて静かな午後となり涙して読む「きけわだつみのこえ」 中川 愛子
 夜半の雨しばし途切れておぼろ月黒き雲間に束の間の灯 岩根 博恵
 菊池野のま中流るる川の辺の洪水あとの姿留める 川口 敦子
 盆迎えやつと戻りし生活に花をお供え両手を合わす 田中 遙子
 長梅雨に蔓葉延びたる朝顔の青空の下あまた花咲く 北村 玉恵

菊池短歌会 9月詠草

仕事終へひと息ついた我の背にかなかなかとひぐらしの声 川口 幸臣
 あふ向けに手足たたみて転がりし熊 安藤 則子
 蝉ひとつ拾へば軽し 廣き葉の蔭にオクラの花ひとつうすき黄の色はにかむやうに 岩永 典子



蚊にさされ易き人ありさればまたにくき人あらむうまくできてる 古賀 勝士
 竹群を渡れる風の響む八月死者の 中川 愛子
 声聞くわれは

